



Title	随想
Author(s)	井手, 正典
Citation	makoto. 1977, 20, p. 15-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86172
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

随 想

元大阪府衛生部防疫課長

井 手 正 典

開業したこともない自分としてのはずれのところもあると思うが、医療問題を述べて見たい。最近医療の荒廃が云われる。

風呂敷包一杯の薬を処方するとか、何でも直ぐ注射するとか、救急患者の診療拒否などが伝えられ批判を浴びている。私の直接の見聞でも外傷もない軽微な交通事故にも保険会社はいくらでも請求分を払ってくれますよ……と広言した医師がいた。安直に保険診療を受け注射して欲しいと要求するような患者もいるが、指導の立場にある医師がこれに簡単に応じるなどは論外といわねばならない。

医師会は学術的団体である。武見会長はいう。しかし、現実には少なからざる医師がどこ吹く風と打算的思考で医療を行っているのしか思えない。勿論、どんな社会でも良い人がいる反面、不埒な者も少なくなくその行為が強調され指弾を浴びることになるのはやむを得まい。

私は現在の医療に於ける欠陥は健康保険制度にあることを主張したい。既に多くの識者がこれに気付いて抜本的改正が必要だと述べながら、誰も進んで手を着けようとしないう。医師側も現在のままでなんとなく相当の収入が確保できるからと安住の地位に甘んじて、改正は真平という態度としか受取れない。

健康保険制度の改正の眼目は医師の技術料の確立にあり、先づ診療料をはっきりさせることにあると思う。医師会がこういう主張をして欲しいのだが全くその動きがないのを不思議に思う。今どきテレビを修理しても五千円位の技術料を払わねばならないし、理髪料としても四十分位の作業に対して二千円程度払う必要がある。従って、医師の診療料は相当高額になっても当然といえよう。しかし、健康保険制度の枠内のことでもある

から、初診料は一律五千円としこれを患者の自己負担とするのである。この場合、医師の経歴も重視する必要があるから適当額の差額徴収を認め、その額は待合室に明示させ保険者にも届けさせる。この額はその医師本人が決めるべきで駆出しの医師が多額を徴収しようとしても無駄であり、結局患者側の公正な判定が行われ適当な水準に落付く筈である。この辺の事情が医師に最も嫌われる点かも知れない。更に初診後一週間は再診料として二千円程度を患者の負担にする。差額徴収は再診の場合にはなくてもよい。

以上の措置により乱診乱療は止み、必ずしも医療を要しない患者に必要とした無駄な経費は莫大に節減される筈である。けだし、古代の医聖ヒポクラテスが喝破したように一般の疾病は自然治癒するのであるから、これらの患者は自宅で安静休養すればよい。反対の人が多いかも知れないが、マクロに考えれば死亡原因の三分の二は癌、高血圧、心臓、肝臓、腎臓等々の疾患で長期の入院治療を必要とし、現在の保険医療の仕組では多額の差額徴収を余儀なくされ患者の悩みとなっているわけで、ここへ前記の余剰が振向けられれば個々の人々には却って大きな福祉となる筈である。

この改正で診療所はある程度空くであろうが、診療は懇切丁寧となり患者の信頼を得る機会ともなう。医療は正しい方向を辿るに違いない。また収入不足に悩む大病院でも背に腹かえられずと大量に薬を処方している現在の光景は一掃され、前記の余剰振向けによって入院料その他技術料の大幅値上げが可能となつて経営が安定すると思う。

現在、無料化している老人医療も所謂自然のガタによる症状で根本的に治癒する望みがないにも拘らず無暗に医師を訪れるという弊害を除くため、軽少でも初診料を自己負担させるのがよく、福祉のバラ撒きはいただけない。

この案に反対する医師は日常精進して医療に対処せねばならないことに苦痛を感じるからであらう。他方、この改善が陽の目を見れば医薬分業、専門医と家庭医の関係、病院と診療所の業務分担等も自然に解決するのではなからうか。

現在少なからざる医師は多忙に紛れて情性的態度で診療しているように見える。忙しいといながらゴルフに海外旅行に結構楽しんでいらしい。その子弟が医大入学に苦勞するのも当然の帰結といえる。私立医大の莫大な入学時寄付金を払うのは七割は開業医であるという。親が日常診療に心魂こめて精進すれば例外はあつても子弟も親を見習い奮立って今のように苦勞することも少なくなろう。

今の健康保険制度の下では、医師患者ともにその制度を悪用といえ言過ぎかも知れないが、安易に利用して無駄に経費をつかい過ぎていくわけで、速やかに合理化させねばならない。毎年の医療費の総額は所得税総額をオーバーする程莫大である。しかも医療サービスとして入院患者に不徹底というのはいくらもただけな話である。

